

# 開設30周年記念 2022年度 公開講演会

聴講無料！

オンライン併用  
(ライブ配信)

※一部、オンライン  
を併用しない場合  
もあります。

30周年富士山特集 大学説明会同日開催

## 第1回 富士山の構成資産の価値・現状・課題 渡井 一信

世界遺産「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」の自然的、文化的背景と成り立ちを紹介します 富士宮市立郷土資料館  
7/30(土) 10:00～12:00 県立三島長陵高校 (三島市文教町) 館長 (地域史)



30周年富士山特集

## 第2回 富士山ハザードマップの読み解き方 小山 真人

17年ぶりに改定された富士山のハザードマップを読み解き、眠れる火山との付き合い方を考えます 静岡大学 教授  
8/6(土) 13:30～15:30 静岡市立南部図書館 (静岡市駿河区南八幡町) (自然災害科学、防災学)



30周年富士山特集

三島市共催

## 第3回 水と暮らしの戦後史－高度経済成長期の三島 沼尻 晃伸

「水郷」とよばれた三島で、水と人々の暮らしの関わりが変化するプロセスを探ります 立教大学 教授  
8/27(土) 13:30～15:30 三島市民生涯学習センター (三島市大宮町) (現代日本社会経済史)



30周年富士山特集 大学説明会同日開催

## 第4回 富士山の裾野を守る落葉樹林散策の楽しさ発見 増澤 武弘

富士の裾野に広がる貴重な落葉樹林 (ブナ・ミズナラなど) の生物多様性を紹介します 静岡大学 客員教授  
1/29(日) 10:00～12:00 県立三島長陵高校 (三島市文教町) (植物生態学・極限環境科学)



## 第5回 戦後の皇室像と浜名湖

なぜ戦後の一時期、皇太子 (現上皇) 一家は夏に浜名湖畔を訪れ続けたのか考えます  
2/4(土) 13:30～15:30 クリエイト浜松 (浜松市中区早馬町)

## 原 武史

放送大学 教授  
(日本政治思想史)



## 第6回 21世紀の文化遺産論

文化遺産を巡る議論の国際的な新潮流を、SDGsやジオパークとの接点を意識しつつ紹介します  
2/12(日) 13:30～15:30 県立三島長陵高校 (三島市文教町)

## 辻 修次

伊豆半島ジオパーク推進協議会 専任研究員  
(開発学・環境社会学)



## 第7回 中国共産党第20回党大会の開催

5年に一度の党大会 (今年後半開催予定) 決議を踏まえ、中国が今後目指す国家像について考えます  
2/19(日) 13:30～15:30 クリエイト浜松 (浜松市中区早馬町)

## 諏訪 一幸

静岡県立大学 教授  
(現代中国、日中関係)



放送大学は、BSテレビ・ラジオ、インターネットを通じて学習できる文部科学省・総務省所管の通信制大学・大学院です。幅広い年代、職業の方が、自分に合ったスタイルで、時間や場所を問わずに学習できます。

いろいろな資格取得 (心理、看護、教員等) に必要な単位も修得できます。

### 大学説明会

オンライン併用

10月入学生対象 7/30(土)三島、7/31(日)浜松、8/7(日)静岡

4月入学生対象 1/28(土)浜松、1/29(日)三島、2/5(日)静岡

※個別相談は毎日開催しています。大学説明動画公開中！

### 30周年記念式典

10月8日(土)

13:30～

県立三島長陵高校

【お問い合わせ先】 放送大学 静岡学習センター 詳しくはWebで

〒411-0033 三島市文教町1-3-93 (県立三島長陵高校2階)

☎ 055-989-1253 ✉ shizuoka-sc@ouj.ac.jp

ご来場のお申込みは、開催3か月前から受け付けます。



2022年度放送大学公開講演会

## 中国共産党第20回全国代表大会の開催

— 危機感の上に構築された一強体制とゼロ・コロナ放棄 —

2023年2月19日  
静岡県立大学 諏訪一幸

1

### I 第20回党全国代表大会（及び1中全会）の開催

1. 2022年10月16日～22日、23日

2. 全般的評価

(1) 習近平一人勝ち（一強体制確立）の大会

→ ただし、これは体制の盤石化を意味しない（後述）

(2) 予兆 習近平（指導部）への忖度、保身

①在英マンチェスター中国総領事館「デモ参加者敷地内引きずり込み」事件（10月16日。写真）

②7～9期GDPの発表見送り

（10月18日発表予定。24日発表、前年同期比実質3.9%増）

2

### 3. 政治報告（党大会課題1）

（1）総論 習近平路線の継続と強化を強調、新味なし

- ①「新味なし」は自信の表れ？
- ②政権をイメージさせるキーワードは「闘争、安全、強国」  
→ その背景にあるのは危機感
- ③基調を支配する米中対立
- ④最重要キーワード1「中国式現代化」（国外向け）

3

### （2）各論

#### ①内政

- 習近平の信念は「安定」の追求
- 「反腐敗による自我革命（最重要キーワード2）」
- レガシーは台湾統一と共同富裕の実現
- デカップリングも念頭に（科学技術の自立自強）

4

## ②外交

- すべては対米勝利のため
- 途上国との関係強化等を通じ、新型国際関係構築を希求

## ③台湾

- 武力統一の可能性を否定せず
- ロシアによるウクライナ侵略失敗の教訓で、ハードルは上がった？ 習近平にとっての「合理性」とは？

5

## (3) 習近平政治のイメージと実態

### ①イメージ

- 「今世紀中頃に、わが国を豊かで強く、民主的、文化的で、調和のとれた、美しい社会主義現代化強国につくりあげる、すなわち、中華民族の偉大な復興実現」（第2の100年奮闘目標実現）と人類運命共同体構築がわが党の目標
- 目標は、中国共産党の指導堅持によって実現（中国式現代化）
- 中国式現代化や中華民族の偉大な復興の実現は、人民のため
- 目標は各分野での発展によって実現。改革開放政策を継続
- 目標実現には内外の安全安定確保が必須。そのために求められるのが闘争。その核心は、対外的には中国の特色ある大国外交、国内的には反腐敗などによる自我革命

6

## ②実態（本音）

- 党にとって唯一の使命は、党指導の永続化と今世紀中頃に米国を凌ぐ大国となること、すなわち、中華民族の偉大な復興（中国式現代化）。そのためには、各分野での発展が重要
- 然るに、米国を中心とする西側国家とその影響を受けた国内勢力は、我々のこの使命、とりわけ台湾統一実現を阻止しようとしている。我々は今、危機下にあり
- こうした状況下で目標を達成するためには、党の指導を一層強化する必要あり。党の指導強化とは、すなわち、最高指導者への権力集中。それは、国内では反腐敗闘争（自我革命）、対外的には「責任ある大国」によって、初めて実現可能

7

## 4. 改正党規約（課題2）

### （1）前文

- ①「二つの確立」（習近平同志の党中央の核心、全党の核心としての地位。習近平新時代の中国の特色ある社会主義思想の指導（指導）的地位）なし
- ②「領袖」なし
- ③「習近平思想」なし
- ④「祖国統一の大業を完成する」→「台湾独立に断固反対し、抑え込む」

8

- ⑤「中国式現代化をもって中華民族の偉大な復興を全面的に促進する」
- ⑥「闘争精神を発揚し、闘争の本領を増強する」「偉大な自我革命をもって、偉大な社会革命をリードする」  
→ 「革命」「闘争」好きの習近平
- ⑦「強さ」に価値観を置く現政権を象徴する文言は、「政治建軍、改革強軍、科技強軍、人材強軍、依法治軍」の堅持

9

## (2) 本文

- ①「二つの擁護」（習近平総書記の党中央の核心、全党の核心的地位を断固擁護する。党中央の権威と集中的統一指導を断固擁護する）（第3条）
- ②「集団指導」と「個人崇拜の禁止」を継続（第10条）  
→ ①と②は矛盾しないのか？
- ③「主席」なし

10

## 5. 指導部人事（課題3）

### （1）総論

①「習近平主従党中央」の誕生

②コインの表と裏

→ ネポティズムを強行できる強さと「辞められない」弱さ  
（経済がアキレス腱）

### （2）中央政治局常務委員（1中全会で選出）

①李克強！ 栗戦書 汪洋！ 韓正がリタイア

→ 3月には韓正が国家副主席？

### ②新指導部（序列準）

習近平（総書記、中央軍事委員会主席。国家主席）

李 強（3月には総理？ 浙江省時代の習近平の部下）

趙楽際（3月には全人代委員長？ 習近平とは同郷（陝西省））

王滬寧（3月には全国政協主席？）

蔡 奇（書記処書記。イデオロギー担当？ 福建省、浙江省時代の習近平の部下）

丁薛祥（3月には筆頭副総理？ 上海時代より、習近平の秘書役）

李 希（中央規律検査委員会書記。延安市（陝西省の中心地）  
党委員会書記経験者）

## 6. 胡錦濤「退席」事件に見る習近平政治の本質

### (1) 事件の概要

党大会の最終日、胡錦濤前総書記が習近平のボディガードらによって、会場から「連れ出される」（写真）

### (2) メディアが指摘する問題点（無意味）

→ 「人事に不満な胡錦濤が反習近平にでた」

→ 根拠は、中央委員選出選挙を終え、記者を入れた後の  
タイミング

→ 胡錦濤（主席団メンバー。候補者名簿作成に関与できる立場）が認知症等であれば、合理的説明できず

13

### (3) 明確なこと

#### ①想定外の事態

→ 序列第三位（栗戦書）の動揺ぶり

#### ②何か（人事？）に不満な様子の胡錦濤を会場から強制的に連れだす

→ 指導部はほぼ全員が無視。これが習近平政治の実態

#### ③習近平（ら）は前任者、長老に敬意を払わず

→ 長幼の序を重んじる中国的価値観の否定

#### ④政治報告を含め、習近平には前任者を葬るだけの権力あり

14



## 7. 第三期の展望

### (1) 内外政策での更なる習近平化（新しさと強さの強調）

#### ①国内では、異質を排除する強権政治の強化

- 人民が成長を実感できるのであれば、問題化せず
- 第四期を目指し、後継者は引き続き曖昧化

#### ②「外交は闘争だ！」と平和共存五原則の整合性は？

- 自称「途上国のリーダー」なので、問題なし

#### ③強まる台湾への圧力

- 当面の焦点は2024年（台湾総統選挙）、2027年（人民解放軍創建100周年）
- 台湾の「民意」は軽視

### (2) 毛沢東越えを目指す習近平

：実績もカリスマもない強権的指導者に可能なのか？

#### ①党大会で「二つの答え」提起

- 毛沢東は、「人民を立ち上がらせて政府を監督する」という「第一の答え」を発見
- 自らは、「反腐敗という自我革命で歴史周期律を克服する」という「第二の答え」を発見

②党大会直後（2022年10月27日）、全常務委員を連れて、延安視察

→「党と毛主席を讃える文芸作品は、人民大衆が自発的に創造したもので、人民が毛沢東を選び、毛沢東を推戴していることを十分説明している」と指摘

③「主席」、「領袖」、「習近平思想」の行方

17

## Ⅱ ゼロ・コロナ政策の放棄と日中関係

1. コロナ・パンデミック化の責任は「中国」にあり

- (1) 「中国共産党」は、唯一絶対の指導者体制を構築
- (2) 「指導者習近平」は、発生直後に適切な指示をださず
- (3) 「人民」は、混乱の中にあっても、これを受け入れ

18

## 2. 「ダイナミック・ゼロ」（ゼロ・コロナ）から「ウイルス拡散防止コントロールと経済社会発展のバランス重視」へ

### (1) 転換の予兆と背景

#### ① 主動（予兆）

- 習近平、原則マスクなしの外遊（2022年11月15日～19日、バリ、バンコク）
- ゼロ・コロナ貫徹を主張してきた「仲音」論調の変化
  - 『人民日報』2022年11月19日掲載論評に、「ダイナミック・ゼロ」と「ウイルス拡散防止コントロールと経済社会発展のバランス重視」を併記

19

- 『人民日報』11月29日を最後に、「ダイナミック・ゼロ」に言及せず

- 12月7日、政策変更を示す「10条」発表

#### ② 受動（背景）

- 長引くゼロ・コロナ政策への不満
- 行動の自由制限、経済的苦境
- ウルムチ火災事故（11月24日。事件？）直後、各地で「共産党は下野せよ！」「習近平は辞めろ！」の声



対応/説明次第では、政権基盤をより強化できたのでは？

20

### 3. ゼロ・コロナ対策の転換に見られる「失策」

#### (1) 無視された「バランス重視」

→ 2022年3月時点で提起されていたバランス重視

→ 中央政治局常務委員会が3月17日に会議開催、「戦略的意志を保ち、安定の中で進歩を求め、ウイルス拡散防止コントロールと経済社会発展のバランスをしっかりと重視しなければならない」旨強調

#### (2) ヘッドクォーターのミスマッチ

→ 孫春蘭の担当は文化と衛生。経済は？

#### (3) 肝心なところでコロナ対策戦線から離脱する習近平

21

### 4. それでも崩れない共産党指導体制

#### (1) 突然のゼロ・コロナ政策放棄と無政府状態

##### ①武漢のロックダウン同様、「突然」の転換

→ 「突然」に慣れ切った人民

##### ②不十分な薬品供給、受け入れ態勢が拡充されない医療機関、一挙になくなったPCR検査場

→ 機能しないヘッドクォーター、自己防衛に走る人民

##### ③大量の「病院入院中の」死亡者

→ 2022年12月8日から2023年1月19日の間に、72,596人

↓

日本だったら政権崩壊？

22

## (2) 中国人民の対応

①それぞれが、あらゆる手段を講じて自己防衛

→ 人民と指導部の間にある断絶、指導部への諦念

②不満は地元幹部や現場関係者へ

→ 中国には「県レベルに大きな地方自治権」があり、それを彼らが乱用？

23

↓

③中国人民にとってのデッドラインは、お金/飢え？

→ 「日本人はよく我慢していますね。年金が減るなんてあり得ませんよ。中国ならば暴動が起きていると思いますよ」(ある中国人の発言。某日本人報道関係者談)

↓

ゼロ・コロナの放棄は人民のデッドラインに達せず

↓

24

↓  
今後も「安定」が続くとしたら、習近平は恐ろしい指導者？  
→ 「恐ろしい」とは、  
→ 今程度の数の人民の死は「鴻毛より軽い」と切り捨て  
→ 「生存権が脅かされない限り、人民は、自分のことで  
手いっぱい、政権に従順である」と見切り

↓  
「指導者は人民など眼中になく、人民は指導者に頼らない」。  
しかし、あたかも相思相愛であるかのように、ワルツ  
→ 「安定」とは、このようなバランスの上に成立？

↓

25

↓  
指導者の突然の交代（現政権下で起こりうる「安定」破壊  
要因）そのものが人民に与える影響は小さい

↓

＜暫定的結論＞ 中国の将来を語る上での、内政上のポイントは、  
1. 各論で見解が異なるであろう指導部が、「共産党政権の  
維持」をコンセンサスに、団結できるか？  
2. 指導部は人民（とりわけ、農民。そして、知識人）の  
デッドラインを読み切れるか？

26

## Ⅱ 日中関係

### 1. 習近平外交の規定要因

#### (1) 「危機」認識

- 米中対立とロシアのウクライナ侵略  
(内政面ではコロナ感染拡大と経済の落ち込み)

#### (2) 「好機」認識

- グローバル・サウスのリーダーへ  
(内政面では第三期指導体制強化へ)



27



#### 「好機」認識先行のパフォーマンス

- キーワードは「中国式現代化」「歴史主動」
  - 「中国式現代化」とは、欧米式ではない独自性の強調
  - 「歴史主動」とは、受け身にならず、自らが歴史を作り、動かすという意志  
(内政面では「自我革命」)



基調は、強硬路線の継続

28

## 2. 中国の対日政策

### (1) 「大国」から「周辺国」へ

①2012年の尖閣「国有化」以降、日本は「大国」から脱落

→ 2010年のGDP逆転もあり、日本の「重要性」低下

②独立変数から「米国追随」の従属変数へ

### (2) 2022年の中日関係

→ 日本は「区域主義」の対象として、「中日両国は国交正常化50周年を共に記念し、両国指導者は、三年ぶりに対面での会談を行い、中日関係の安定と発展に関し、重要なコンセンサスを得た」（2022年12月25日、王毅）と一定の評価

29

### (3) 当面基調となるのは、対決/強硬姿勢の継続

①日米関係に対しては、包摂と排除という統一戦線的対応

→ 安保三文書には「断固反対」

②尖閣問題では、引き続き「主権」主張のための侵犯行動

③台湾（海峡）問題では、引き続き「内政干渉」を拒否

→ 日本にとっては安全保障上の問題

④福島原発汚染水処理問題では、関係国との協議要求

⑤経済、民間交流などでは融和、積極姿勢

⑥ビザ発給中止という「対等措置」

→ 実質的には、感情論と忖度に基づく「報復措置」

### (4) 王毅や秦剛は、習近平外交のコマに過ぎず

30



### 3. 日本の対中政策（提言）

#### （1）「長期的視野と強靱な忍耐力を」

→ 習近平政権は、当面对決/強硬姿勢が基調

#### （2）長期的に目指すは、「良き競争関係を目指しての、対峙と協働。対峙を上回る協働」

①「対峙」は、経済安全保障、海洋主権（東シナ海、尖閣）、国家統合（台湾、香港、少数民族）など。手段は米国・G7・ASEAN等との関係強化、防衛力強化など

②「協働」は、国際的課題では気候変動や感染症対策、二国間関係では経済貿易、少子高齢化、若者交流などの分野での協力強化

#### （3）中期的には、「ロシアとの関係を見直して構築する、これからの日中50年」というコンセプト

①「中国は50年前、ソ連と決別。今後50年の日中関係は、中国がロシアと決別（関係再考）することで構築を」

→ 現在、中国がこれに応える可能性は極めて低い

→ ウクライナ危機への対応に苦悩する中国

→ 平和友好条約締結45周年をステップに

②日本の役割は、

- 中国に対しては、「ロシアとの関係を見直し、新たな日中関係と国際秩序を共に構築しよう」と、訴える
- 「国際社会に一層貢献できるシステム構築」は日中共通の課題
  - 強硬に過ぎる対中岸田外交（例えば、対NATO）
- 米国に対しては、対中対決姿勢修正を呼びかけ。「圧力だけでは効果なし。協力関係構築の意思をより明確にし、緊張緩和を目指すべき。台湾問題では慎重に」
- 「6.4」直後から水面下で関係改善を図った米国

33

＜補充：2023年2月、米国による中国の「気球」撃墜事件＞

1. 誰が、どのような意図で、「気球」を飛ばしたのか？
  - 合理的に説明できず。バイデン政権発足当時に定めた中国の対米強硬政策が、見直しされていなかった？
2. 中国が怒る理由は？
  - 米中間の意思疎通が十分ではなかった？「過去4回、米国からは特段の抗議がなかった。それなのに今回は」？
3. 災い転じて福となすか？
  - 両国ともに、危機管理システム構築の必要性を強く認識。しかし、両国ともに厳しい国内感情ゆえに、難しい

34

謝謝！